

九千の仏画で追悼展

兵庫県南部地震から一年

各務善祥寺住職が11日から神戸で

兵庫県三木市口吉川町禅祥寺二七ノ一、真言宗御室派善祥寺密教院の各務寿晃住職は、自坊の密教美術院で仏画教室を開設する仏画家でもあり、兵庫県南部地震では仏画を通じて犠牲者の追悼供養をしようと発願、昨年七月から「一人一仏運動」を展開し、知己、友人や全国の有縁の人々に呼びかけてきた。当初、震災犠牲者数の六千人を目ざして進めたが、この半年間に九千点の仏画が寄せられ、十一日から十六日まで神戸中央区元町の「こうべまちづくり会館」ギャラリーで「阪神淡路大震災一周忌追悼供養ーいのりー六千仏莊厳仏画展」を開催する。

「一人一仏運動」は、震災の犠牲となった六千三百余人の御霊を供養するとともに被災した人々の心の支えになればと、仏画家でもある各務住職が、御室派総本山仁和寺で所蔵する「御室曼荼羅」を参考に、蓮台に坐す阿弥陀如来像を描いた一人一仏運動用紙（原画横九センチ・縦一二センチ）を有縁の人々に送り、原画に色鉛筆や絵の具、色ペン等で自由に彩色して返送してもらう方法で行なわれた。

寄せられた仏画は、三百仏ずつパネル両面に装画して展示される。同じ原画に九千人の人々が、心を込めて彩色しており、華やかな中にも莊厳さがある。この他に仏画家の山本兆揚、江本象岳の両画伯が「十二支守り本尊」八点、聖観音菩薩などを賛助出品している。

なお、仏画は同展終了後の十七日、善祥寺密教院において追悼供養を厳修したあと同寺に永久保存され、これからも大震災の年忌には追悼供養が行なわれる。

各務住職の「一人一仏運動」に寄せて奈良の高田好胤・法相宗薬師寺管長は「僧であり、絵こころのあたたかい各務寿晃師がお仲間たちと六千余体のお仏像を描かれて、阪神淡路大震災でお亡くなりになったお命のご回向を願われるとの御発願を承った。以前、岩手県を旅したとき、冷夏冷害、飢饉凶作、それが東北の厳しい歴史でもあるが、この歴史の中に命をまびくという話を聞いた。そのまびかれていくお命に、一体ずつお地蔵様のご回向を願って刻まれた。そのお地蔵さんに可愛い子供の目鼻を添えられたのが『こけし人形』の始まりであるとおしえられ、思わず手を合わせて涙ぐんだことを覚えている。このこけし人形の話を出して思うのは、各務師の呼びかけは、阪神淡路大震災で亡くなられたお命のご回向を願う、『平成のこけし絵仏』と申して然るべきおこころ立てであると。『喪なくも慰（いた）めば憂い必ず儲（あた）る』という言葉がある。たとえ自分は遺族でなくとも、心をこめて回向の誠にこれつとめるなれば、ご遺族の涙が自分の身にしみてきて、同じくすることができるとの教えである。おひとかたでも多くの方が、各務師のお導師のもと、涙のお同行を共にしてくださるを願わせていただく」と讃えた。

同展は昨年九月に三木市役所でも開かれたが、神戸展につづいて三月二十日から同二十五日まで、西宮市フレンターホール「ギャラリー・フレンテ」でも開催される予定。

“祈り”を込めて彩色された九千仏の一部【写真は省略】